

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こだま		
○保護者評価実施期間	令和8年1月30日	～	令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 22名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	令和8年1月30日	～	令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	建物が広く、活動ごとの場所が確保されていたり、ワークルームやランチルームでの分けもできている。児童にとっては行動の切り替えが分かりやすくストレスを感じにくくなっています。 スヌーズレンでは5感を刺激しながら発達障害やASDの障害を持った児童に有効で、落ち着いた環境で過ごす事が出来ています。	活動内容によって各部屋の利用用途を使い分けています。興奮した児童や、精神的に不安定な時はスヌーズレンを使用する事で落ち着いた環境を提供できています。	年齢や学年、利用児童の特性や個々の課題に合わせた支援プログラムを行っています。
2	送迎や児童の迎いで家族と直接的に顔を合わす機会も多く、本児の様子や体調を含めて情報を共有する事ができています。また家での様子や困っている事を話し合う事で支援の方法や取り組みを共有できています。	児童が過ごした内容を伝えるだけでなく、支援して上手くいったケースや失敗したケースも含めて話す事で信頼関係を構築して、いつでも相談できる雰囲気作りを心掛けています。	連絡帳での返事や相談事には、内容に合わせて柔軟に対応し、スピード感や丁寧に対応するなど職員間で意識していきます。
3	毎月1回の「こだまだより」を発行し、活動の様子を写真掲載しています。(写真や名前の掲載は必ず確認を取っている)次月の活動もお知らせする事で利用時には何の活動があるのか理解して利用できています。	こだまだより(次月のカレンダー)で活動をお知らせする事で利用児童が楽しみを持ってにこだまへ通えるように努めていきます。	こだまだよりでの情報ではなくSNSやインターネット(HP)を使った情報発信を継続して行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が広く、2階を開放した時には児童の所在確認に時間を要してしまう事があります。	活発な児童ではこだまでのルールを設けて、守る事が出来るよう取り組んでいます。障害特性によってはルールを守る事が苦手の児童がいて所在確認に時間が掛かる事があります。	構造化や視覚表示、個別での日課活動を提示し、一日の流れがわかりやすいように工夫していきます。
2	送迎での迎え時間が学校や学年によってバラつきがあり、こだま到着時間が日によって違う為、個々の利用児童に対する個別支援を行う際の職員配置が上手くできない事があります。	個別支援に対する職員一人一人のスキルを上げ、少ない職員配置であっても自立課題を提供し支援できる体制作りが必要であると考えています。	研修制度を利用して積極的に参加を促します。学んだ専門スキルを発揮できるような環境を提供し、実践してもらいます。
3	保護者同士の交流や現在の悩み、進学への不安などを話せる場が提供できていないと感じます。	保護者同士が顔を合わせて話す場がありません。また通っている学校や自治体も様々で交流がないです。	児童の特性や障害の理解を深め、関わり方がすすむような集まりや研修の案内を知らせていきます。「こだまだより」の発刊だけでなく、よりリアルタイムに様子が伝わるようプライベートに配慮しながら情報発信していきます。